

所 感

未来に的を当てた科学の祭典万博が、つい先頃閉幕した。私も偶然、二度チャンスがあり、相当数のパビリオンを見ることができた。思ったほどの収穫は無かったとする見方もあるようだが、先端技術の現状を垣間見、人それぞれに将来への夢を実感として受容し、それを画くことに参加できること、それは素晴らしい場であり、ショーであったと思う。

立体映像が、際立った人気となるなかで、政府テーマ館の水耕栽培も、静かな人気を呼んだもののひとつであった。大木にも似た1本のトマトが、9千個を越す実をつけた姿と活力は壮観であったし、レタス・サラダ菜等の植物工場のモデルも、また身近で解りやすかった。そ菜に限らず、土を使用しない農産物の生産システムとしての植物工場の実用化段階が、急速に近づいている実感を強くしたものである。

貿易収支の偏りによる摩擦が、昨今厳しさを増している。特に、農産物への外圧が強い。ところが、我が国の食糧自給率は年々低下し、先進国中、最低水準とのことである。そのため、収支を均衡させながら食糧自給率を向上させるという極めて難しい課題に、長期視点から対応してゆかねばならない。古来の農産物生産技術の限界を打開し、飛躍的な生産性向上が望まれる所以であり、また、新規技術開発に俟つ必要がある。その努力が各方面で続けられているわけだが、なかでもバイオテクノロジーや植物生長調節剤等への期待と役割が大きい。植物工場も、斯かる一環として位置づけたいと思っている。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事
日本化学株式会社 農薬事業部長 大森正己〕

目 次 (第19巻第8号)

アメリカにおける主要作物の雑草防除…… 2

＜宇都宮大学 竹内安智＞

は じ め に…………… 2

1. アメリカにおける作物の雑草害…… 2

2. 作物別の雑草防除…………… 3

(1) ダ イ ズ…………… 3

(2) ワ タ…………… 6

(3) トウモロコシ…………… 8

(4) イ ネ…………… 9

埼玉県におけるネギ栽培の現況と雑

草防除…………… 11

＜埼玉県専門技術員 生形藤一＞

1. 特産ネギの導入経緯と産地の

特色…………… 11

2. ネギ栽培の現況…………… 12

3. 主要作型と品種…………… 12

4. 主要作型における作業体系と

栽培法…………… 13

5. 雑草防除の実態…………… 16

6. 産地における今後の課題…………… 16

世界の農耕地雑草とその調査研究(7)

——ナ ス 科 (4)——…………… 17

＜宇都宮大学 竹松哲夫・一前宣正＞

22. *Solanum rostratum* Dum.

トマトダマシ…………… 17

23. *Solanum sisymbriifolium*

Lam. ハリナスビ…………… 18

24. *Solanum sodomium* L. …… 18